
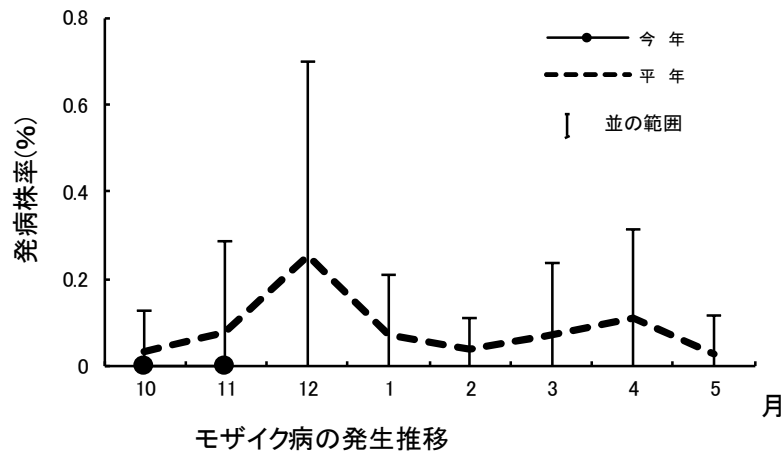



作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	① モザイク病		
11 月の発生量 (現況)	(発生なし)並		
12 月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠 (調査結果)

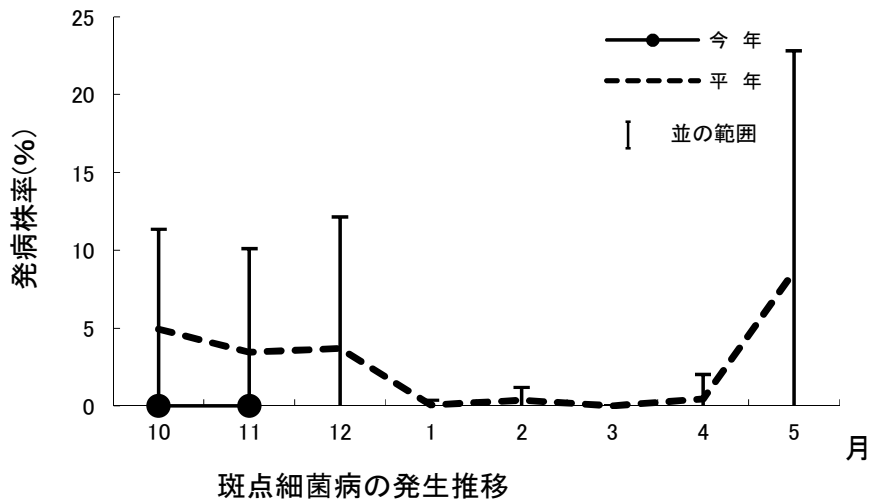


防除のポイント

- ・ Cucumber mosaic Virus(CMV)はアブラムシ類によって媒介されるウイルスで、汁液伝染する。
- ・ 発病株は伝染源となるため、早急に抜き取る。
- ・ 発病株は、施設外に持ち出しビニール袋に入れて密閉処分する。



作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	斑点細菌病		
11 月の発生量 (現況)	(発生なし)並		
12 月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠 (調査結果)

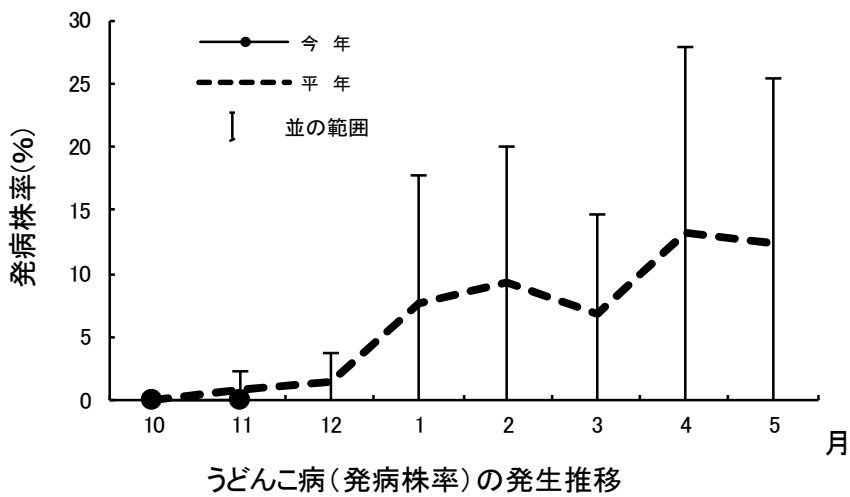


防除のポイント

- ・ 本病は主に葉、葉柄に褐色の斑点を形成し、時には果実や果梗にも被害を出す。
- ・ ハウスでは排水や換気を良くし、多湿を避ける。
- ・ 被害植物の残さは、施設外に持ち出し処分する。



作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	② うどんこ病		
11 月の発生量 (現況)	(発生なし)並	発病株	葉裏のカビ
12 月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠 (調査結果)

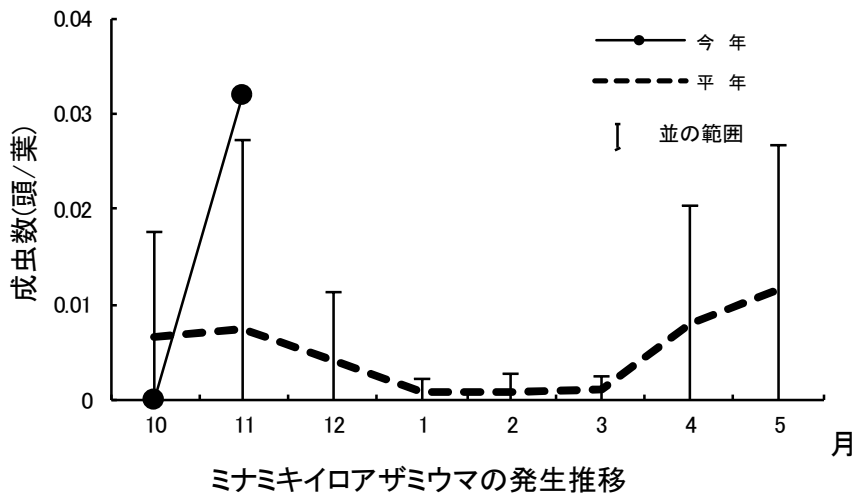


防除のポイント

- ・ 通風が悪いときに多発生しやすいので、老葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・ 多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・ 今後、発生が増加すると考えられるので防除を徹底する。
- ・ 多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。


作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ミナミキイロアザミウマ		 
11月の発生量(現況)	やや多		
12月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、11月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

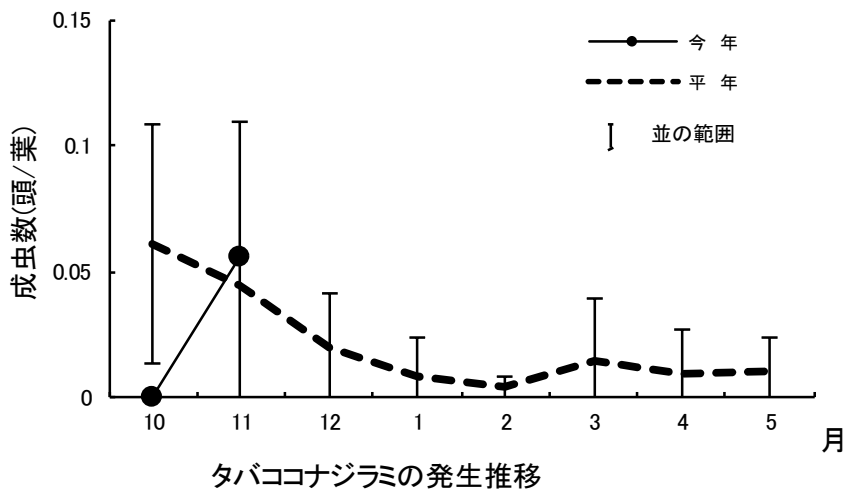


防除のポイント

- ・本種は新葉や果実を吸汁により加害する。新葉は縮れ、果実にはコルク化した線状の傷が付く。また、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・施設の開口部には防虫ネットを張り飛来侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い初期発見・防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

作物	ピーマン	地域	沖縄群島
病害虫名	④ タバココナジラミ		
11月の発生量（現況）	並		
12月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、11月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



防除のポイント

- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・本種は、多発すると果実の着色異常やすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。